



グループ

- 1 たのしむ・くつろぐ（観光）
- 2 食・緑・水をつくる（農林水産）
- 3 まちをにぎわす（商工）
- 4 自然を学ぶ（環境教育）
- 5 ひとを守る（防災）



各グループから出されたキャッチフレーズの案は、地域の特長が表現され、地域を思う気持ちが込められたフレーズとなっていました。

どちらか一方の町に偏った表現は避けた方がよいなどの意見が出され、話し合った結果、キャッチフレーズのキーワードの候補を4つに絞りました。

第2回地域づくりワークショップを開催

地域ブランド化による地域づくり計画をつくるため、流域全体の地域像と、地域像を実現するための取り組みについて話し合いました。

12月18日（木）に舟形町中央公民館で、2回目のワークショップが開催されました。今回も前回に引き続き、最上小国川流域の地域づくり計画（最上小国川清流未来振興計画（案））をつくるためのワークショップです。地域の団体の方や一般公募による参加者の方等、39名に参加していただき、5つのグループに分かれて、流域全体の地域像と地域像を実現するための取り組みを話し合いました。

「清流」「歴史」「文化」「鮎」

これに加えて「笑顔あふれる地域」「楽しい地域」にしていこうということで流域全体の地域像をまとめました。

各グループからだされたキャッチフレーズの案に使われた言葉は次のとおりです。

「歴史」「文化」
「縄文」「縄文の女神」
「清流」「悠久の流れ」
「最上小国川」「小国川」
「豊かな自然」「森林」
「鮎」「松原」
「湯けむり」「ロマン」
「笑顔あふれる」「楽しさ」

1

流域全体の地域像づくり

地域ブランド化による地域づくりを進めるに当たり、最上小国川流域全体の地域像を共有するため、地域の取り組みの原点となるようなキャッチフレーズを考えました。

最上小国川

地域像を実現するための取り組みを考えよう！

「清流」「歴史」「文化」「鮎」によりイメージされる地域像を実現するために、どのような達成指標(目標)を定め、何をどのようにしていったらよいか各グループで話し合い、全体で170余りの意見やアイデアが出されました。

■ ワークショップで出された達成指標(目標)

- 地域独自の「ブランド商品」をつくる。
- 観光の質 日本一を目指す。
- 6次産業の雇用を増やす。
- 緊急時でも生きる術を知っている人がたくさんいる地域にする。
- 子どもたちだけで川遊びができることを普通にする。

等



■ 取り組みに関する意見やアイデア

一部

日本一、子どもたちが川遊びをする川を目指す。

全校の子どもたちが自由に触れ合える川遊びプログラムづくり

最上・舟形のメンバーで「ブランド化プロジェクト会議」を立ち上げる。

子どもの心をつかむ稚魚の放流手法 放流は手のひらから

地域資源を利用したレストランをつくる。(有名なシェフを呼ぶ。)

伝統漁法の復活

新規就農者の増加率(両町あわせて)県内1位を目指す。

小国川を使ったイベントをたくさん企画する。

行政・商工会・JA等の関係者でイベント部会をつくる。

清流ブランドを共有する。

刃物、山、山菜、危険箇所等を学ぶ サバイバル講座!?

清流小国川ブランドをつくる。(米・アスパラ・ニラ・キュウリ・トマト・日本酒・鮎・鮭)

川の危険性を正しく認識している人を増やす。

るるぶの表紙に取り上げられることを目指す。

おもてなしの旅館ランキング日本一を目指す。

河川を掘って温泉探し

現在のお土産品や特産物のリストアップ

浄化槽の普及推進

学校と連携する。

■ 堀江阿武隈川塾長からのアドバイス

ワークショップの終わりに阿武隈川塾で子どもたちと魚を通して河川環境を考える活動を行ってきた堀江清志塾長(阿武隈川漁業協同組合事務局長)から、地域づくりを進める上でのアドバイスをいただきました。

- ・ キャッチフレーズをどのように生かしていくかが重要である。
- ・ 幅広い年齢層が一所懸命やると重要なことが成し遂げられる。
- ・ 両町が一体となって進めることが重要である。
- ・ 計画に対する地域と行政の相互理解と、自立に向けた行政の財政的バックアップがあるのが望ましい。



■ 今後のスケジュール

2回のワークショップでいただいた地域づくりに関する意見やアイデアを素材として、機構設立準備会が、3月末までに振興計画(案)を策定します。その後、4月に立ち上げる機構において振興計画を決定する予定です。

発行
平成27年1月22日

最上小国川清流未来振興機構(仮称)設立準備会
(事務局 山形県県土整備部河川課内 電話 023-630-2615)